

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①: 入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー) が明確に定められているか。

【観点到る状況】

本学では、入学者選抜基本方針「山梨大学が求める人材、養成する人材」を定め(資料 4-1-①-1)、学士課程においては、各学部・学科等ごとにアドミッション・ポリシー、入学までに身につけてほしいことを明確に定めている(資料 4-1-①-2)。

アドミッション・ポリシーは、大学案内、入学者選抜要項、学生募集要項に掲載して、高等学校への配付に加え、オープンキャンパスや高校訪問などの入試広報活動を通じた周知のほか(資料 4-1-①-3、資料 4-1-①-4)、毎年 8 月に開催する高等学校関係者との情報交換会(平成 25 年度は、高等学校関係者 32 校から 37 名、山梨県教育委員会から 1 名、本学関係者 49 名が参加)でも配付し周知を図っている。

大学院課程においては、研究科、教育部、専攻ごとにアドミッション・ポリシーを明確にし、ホームページ、入学者選抜要項(医学系を除く)、学生募集要項に掲載している(資料 4-1-①-5)。

特別支援教育特別専攻科においては、アドミッション・ポリシーを明確にし、ホームページ、学生募集要項に掲載している(資料 4-1-①-6)。

資料 4-1-①-1 山梨大学が求める人、養成する人材

○山梨大学全体の理念・目標とアドミッション・ポリシー

[理念・目的]

豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行います。

[キャッチフレーズ]

地域の中核、世界の人材

[教育目標]

個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

[アドミッション・ポリシー]

本学の理念・目的を理解し、学習意欲と社会に貢献したいという意思のある人を求めています。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ynsprofile/index.php?content_id=28

(出典:山梨大学が求める人、養成する人材)

資料 4-1-①-2 学士課程アドミッション・ポリシー

【教育人間科学部】

[アドミッション・ポリシー]

人間や文化・教育に高い関心を持ち、さらに自ら深く学ぶため主体的に理論的・実践的課題を見出し、解決に向けた探求の努力を継続する意欲のある人を求めています。

○学校教育課程

21 世紀におけるこれからの子どもの成長と発達に高い関心を持ち、教育現場の諸問題に取り組もうとする情熱を持った人を求めています。

幼小発達教育、障害児教育の各コースでは、乳幼児期からの人間の心理社会的および身体的な発達の過程を積極的に学び、小学校、特別支援学校、幼稚園の教員のほか、教育学や心理学の専門的立場から子どもと関わる職業人をを目指す人材を求めています。

言語教育コース(国語教育系・英語教育系)、生活社会教育コース(社会科教育系・家政教育系)、科学教育コース(数学教育系・理科教育系・技術教育系)、芸術身体教育コース(音楽教育系・美術教育系・保健体育系)の各コースでは、各教科の教育理念と専門性を追求すると同時に、特定の領域に限定しない総合的視野を大切にし、小学校・中学校・高等学校での実践的教育力・指導力を修得しようとする人材を求めています。

○生涯学習課程

芸術、保健体育の教科に関心が高く、多様な人々とコミュニケーションする力を持ち、これからの生涯学習・社会教育分野において指導的・教育的立場を目指す人を求めています。

芸術運営コースでは、音楽・美術に関する幅広い知識を持ち、地域での様々なまちづくり、市民活動や芸術文化施設における教育普及活動、学校と地域をつなげる活動に対して主体的な関心を持つ人を求めています。

スポーツ健康科学コースでは、スポーツの科学、健康、文化に関する幅広い知識と問題意識を持ち、特に意見や興味が異なる人たちに対しても主体的、積極的にコミュニケーションできる能力を持つ人を求めています。

【入学までに身につけてほしいこと】

○学校教育課程

各コースの専門性に応じた教科・科目の内容を確実に身につけておく必要があります。同時に、将来教育に携わる者として、我々を取り巻く生活や文化への関心、多様な考えの人たちとのコミュニケーション能力、個性豊かな考えとそれを表現する力を、様々な活動を通して身につけておくことを望んでいます。

○生涯学習課程

現代社会に対する深い関心を持ちながら幅広い教養を身につけるような学習を進め、自ら関心のあるテーマについて主体的に学習する態度を養うことが大切です。

芸術運営コースでは、音楽・美術に関する学習はもちろん、市民活動や芸術文化施設における教育普及活動に積極的に参加し、経験しておくことを望んでいます。

スポーツ健康科学コースでは、スポーツ実技に限定することなく、生活習慣や身体文化全般について文系、理系を問わず広範な領域から学習することが必要です。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=29

【医学部】

【アドミッション・ポリシー】

○医学科

医学部医学科では、国民の健康を支える医学・医療に将来、携わることへの強い意志と深い関心を持ち、総合的理解力、論理的思考力、問題解決能力を備え、他者とのコミュニケーション及び自己表現に優れるとともに、自己啓発のために生涯にわたって学ぶことを継続する意欲を持つ人を求めています。

○看護学科

看護学科は、生命の尊厳を基本とし、看護の倫理性を身につけ、深い人間愛と広い視野を持つ看護専門職及び看護学研究者の育成を目的としています。そのため看護学科では、人間への深い関心と優れたコミュニケーション能力を備え、多様な健康問題を科学的に判断し解決できる能力を有し、保健・医療・福祉に貢献するために継続的に努力できる人材を求めています。

【入学までに身につけてほしいこと】

○医学科

医学部で幅広い医学的知識を学習するために必要な基礎学力を身につけてください。特に、大学受験の理科学科目として物理、化学を選択した学生には生物学の基礎を修得することを望んでいます。また、外国語の修得は時間を要するものですので、入学前から常に英語の語学力の向上を目指してください。

多彩な人との豊かな人間関係を築くこと、様々な組織の中でチームワークによる活動の経験を持つことによって、医療人に求められる高い倫理観、信頼される人間性、広い社会的視野を涵養することを心掛けてください。

○看護学科

看護学科入学までには、高等学校で学ぶ数学、理科、国語、英語、社会の内容を十分理解している必要があります。加えて、主体的に学習する態度を身につけ、多様な世代の人々と豊かな人間関係を築き、国内外の社会情勢の変化に眼を向けてください。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=30

【工学部】

【アドミッション・ポリシー】

工学技術者となって社会に貢献しようとする意思を持ち、積極的な学習意欲、基礎的学力、論理的思考力・表現力などを有する人を求めています。

○機械工学科

機械工学の知識・技術に加えて、自動車、航空・宇宙産業や医工学分野、動力エネルギー分野における最先端の技術を修得し、多様化する社会の要請に応えたい人を求めています。

○電気電子工学科

人と環境との調和を考え、電気工学と電子工学の知識・技術を修得して、高機能化社会に貢献したい人を求めています。

○コンピュータ理工学科

情報科学技術及びそれを支える数理科学や人間科学などの専門的知識を修得し、次世代の豊かな高度情報化社会を創造し、その中核として活躍したい人を求めています。

○情報メカトロニクス工学科

複数の分野にまたがる工学的知識を駆使して実践的な問題を解決できる能力を修得することを望み、機械・電気・情報の壁を越えてIT社会を支える技術者を目指す人を求めています。

○土木環境工学科

自然環境と調和した社会基盤整備の知識・技術を修得し、災害に強く、環境に配慮した安全で快適な地域づくり・まちづくりに携わりたい人を求めています。

○応用化学科

化学を基礎とする科学的知識と実験技術を修得し、新素材・高機能物質の開発や、エネルギー・環境等の課題を解決しようとする意欲的な人を求めています。

○先端材料理工学科

物理と化学の知識を合わせ持ち、原子・分子レベルの操作で先端材料を作り新機能を生み出すことによって新しい社会を築いていこうとする人を求めています。

〔入学までに身につけてほしいこと〕

○機械工学科

高等学校で履修した科目、とりわけ数学、物理、英語をしっかりと理解していることが必要です。機械工学は物理を基礎として、また数学を駆使して構築されている工学分野です。数学、物理の本質を理解するとともに、また国際的に活躍できる人材となるために不可欠な英語の素養も身につけてくることを期待しています。

○電気電子工学科

高等学校で履修した数学、理科、英語、国語、社会で学習した内容がしっかりと理解できていることを望んでいます。特に、物理と数学の本質を理解するとともに、電気、磁気、光、電子に関する物理現象に興味を持って勉強して来てください。

○コンピュータ理工学科

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、社会の内容を十分理解していることが必要です。コンピュータ理工学は、情報化社会の基盤と密接に関連しています。したがって、情報システムや機器の設計・解析手法を学ぶための理工系の素養の他に、文化や慣習などに対する知識や理解とともに日本語や英語によるコミュニケーション能力を備えていることが期待されます。

○情報メカトロニクス工学科

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、社会の内容を十分理解していることが必要です。また情報メカトロニクス工学科は、電気・情報・機械の幅広い分野に関連しています。従って、分野を問わず最先端技術に興味を持つと共に、その基礎となる物理、数学などの本質を理解するようにしてください。

○土木環境工学科

高等学校で学ぶ数学、理科、国語、英語、社会の内容を十分に理解していることが必要です。土木環境工学は自然や社会との接点が大い分野です。解析や設計に直接通じる数学や物理の学力だけでなく理科全般の素養と、自分の言葉で社会とコミュニケーションするために、国語、英語、社会の素養を身につけていることを期待しています。

○応用化学科

高等学校で学ぶ数学、理科、英語、国語、社会の内容を十分に理解しておくことが必要です。化学はもちろんのこと、数学や物理の基礎学力は実験結果の解析に必要となります。また、外国の専門誌を読んだり、レポートを作成したりするためには、英語や国語の力が必要です。化学だけでなく境界領域、さらには化学以外の科目にも興味を持って勉強しておくことを期待します。

○先端材料理工学科

高等学校で学ぶ数学そして物理と化学を理解していること、それ以前にそれらが好きであることが重要です。研究論文や技術報告書を読む、あるいは自ら執筆するためには英語や国語の力、特に論理を組み立てていく能力も必要です。入学時にこれらをすべて備えていることを必ずしも要求しませんが、将来の自分のために投資しておくという基本的学習習慣だけは必ず身につけておくことを期待します。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ynsprofile/index.php?content_id=31

【生命環境学部】

〔アドミッション・ポリシー〕

自然と社会の共生科学の視点から、生命・食・環境・経営などの諸課題に取組み、解決する意欲をもつ人を求めています。

○生命工学科

生命科学に興味をもち、バイオサイエンスやバイオテクノロジーの知識・技術を修得し、安全な食料生産、健康増進、地球環境保全等の多様な課題の解決に貢献する意欲をもつ人を求めています。

○地域食物科学科

果樹・野菜の栽培・加工に興味をもち、食物生産に関する知識・技術を学び、農作物の生産・加工・利用等に関する課題を解決し、食産業の発展に貢献する意欲をもつ人を求めています。ワイン科学特別コースでは、ワイン製造に強い意欲をもつ人を求めています。

○環境科学科

環境に関わる諸問題に興味と関心をもち、環境影響評価や環境管理計画の知識・技術を学び、生物資源の持続的な生産を支える地域および地球規模の環境についての科学的な見方を身につけ、人と環境とが共生する社会の形成に貢献する意欲をもつ人を求めています。

○地域社会システム学科

経済・経営・行政に強い関心をもち、経済・経営・政策に関する社会科学および数学的な見方や考え方を学び、国際的視野をもって食をはじめとする産業創造等を通して地域社会の持続的な発展に貢献する意欲をもつ人を求めています。

〔入学までに身につけてほしいこと〕

○生命工学科

バイオサイエンスを理解し、バイオテクノロジーを身につけるために、生物を中心とした学問領域に加え、多様な物質をあつかう化学に関する知識が必要です。論理的思考力を養うため、数学の素養も望んでいます。入学試験で課している科目について、十分な学力を有していることを期待しています。

○地域食物科学科

食物生産あるいはワイン製造に関する課題を解決するためには、原料の生産・加工・利用等を含む総合的な知識が必要です。したがって、高等学校で学ぶ化学・生物などの理科学科目を十分に理解できていることを望んでいます。また、自らの考えを論理的に伝え

る基礎として、高等学校で学ぶ国語・英語を身につけておくことを期待しています。

○環境科学科
高等学校で履修した物理、化学、生物、地学といった理系科目に加え、自分の言葉で他者とコミュニケーションをとるための国語や外国語の素養が身につけていることを望んでいます。さらに、地理歴史、公民といった社会系科目に対する理解と同時に、環境に対する関心や興味を持っていることを期待しています。

○地域社会システム学科
高等学校で学ぶ国語、地理歴史、公民、数学、外国語の基礎的内容を十分に理解していることが必要です。特に、公民(現代社会、政治・経済、倫理)の学習意欲が高く、普段から新聞や書籍を読み、政治・経済の動向や現代社会の問題に強い関心を持っていることを望んでいます。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=183

資料 4-1-①-3 「オープンキャンパス参加者数」 (単位: 人)

	参加者数		
	23 年度	24 年度	25 年度
教育人間科学部	602	562	560
医学部医学科	270	346	264
医学部看護学科	354	362	474
工学部	901	653	713
生命環境学部		466	567

(出典: 各学部支援課提供資料)

資料 4-1-①-4 「進学説明会参加回数」 (単位: 回)

	23 年度	24 年度	25 年度
会場形式	14	25	35
高校訪問	9	21	31

(出典: 入試課提供資料)

資料 4-1-①-5 大学院課程アドミッション・ポリシー

【教育学研究科】

【教育目標】
教育実践に関わる学術諸分野と一般社会における専門的職業人の養成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】
教育問題に強い関心を持ち、実践的な対応力と専門的な力量を身に付けたいという意思を持ち、地域・文化の向上に寄与したいという意欲のある人を求めます。

○教育支援科学専攻
学校教育に関わる諸問題について理論的知識と実践的な基礎を持ち、生涯発達・生涯学習を視野に入れながら、教育の本質と本来的課題を探究したい人、及び障害児教育を取り巻く社会的、現在のニーズに強い関心を持ち、課題解決のための具体的方策について理論的知見と基礎的技術を身につけたい人を求めます。

○教科教育専攻
教科教育及び関連する各専門分野について理論的知識と実践的な基礎を持ち、教育の本質と各教科教育学の将来的課題を探究したい人を求めます。

○教育実践創成専攻(教職大学院)
地域や学校において指導的・中核的な役割を果たし得るに不可欠な確かな教育指導理論と高度で優れた実践力・応用力を身につけたいという現職教員、及び実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として自ら積極的に取り組み、将来的にリーダーとしての役割を果たそうとする意欲のある人を求めます。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=32

【医学工学総合教育部修士課程】

【教育目標】
専門知識及び開発能力、問題発見・解決能力、国際的コミュニケーション能力を修得し、専門技術者・研究者として社会に貢献できる人材の養成を目指します。

【アドミッション・ポリシー】
専門領域の基礎的学力を持ち、さらなる知識の修得意欲があり、高度の研究や応用を目指し、その成果を社会に還元しようとする人を求めます。

○機械システム工学専攻
機械物理、生産技術工学、システム設計工学を修得し、社会的要請にも応えられ、国際的にも活躍しようとする人を求めます。

○電気電子システム工学専攻
電気電子工学の先端技術と関連境界領域技術を理解し、時代の要請に応える意欲を持つ人を求めます。

○コンピュータ・メディア工学専攻
コンピュータの知識と技術および人間の情報処理機構の理解に基づくユビキタス/ネットワーク社会構築、および幅広い情報応用分野で活躍しようとする人を求めます。

○土木環境工学専攻

土木工学と環境工学に関する専門知識の修得とあわせて研究能力を養い、環境と調和した安全で持続可能な社会を支える新しい時代の社会基盤の創造を推進する意欲のある人を求めます。

○応用化学専攻

機能物質に関する高度な知識と先端技術を修得し、グリーンケミストリー、ナノ・機能材料、クリーンエネルギー分野に貢献しようとする人を求めます。

○生命工学専攻

生命工学に関する高度な知識と先端技術を修得し、地域社会や国際社会に貢献しようとする意欲を持つ人を求めます。

○持続社会形成専攻

物質循環と経済社会の連携した仕組みを理解し、ゼロエミッション社会を支えるエンジニア、社会システムアナリスト等の行政、教育、企業で活躍しようとする人を求めます。

○人間システム工学専攻

機械系、電気系、土木環境系など多様な専門領域の知識と技術を修得し、人間社会のマネジメント、人間とのインターフェース、人間指向の機器デザイン・ファブリケーション、プロービング・センシングに関わる学際領域の諸問題を解決しようとする人を求めます。

○組込み型統合システム開発教育プログラム

機械・電気・コンピュータの壁を超えて協働開発を主導できる組込みシステム高度技術者として企業、社会で活躍することを目指している人を求めます。

○国際流域環境科学特別教育プログラム

水資源、水災害、水環境などに関する問題の解決に役立つ多様な専門領域の知識と技術を修得し、河川流域の総合水管理、国際的な水問題の解決に貢献しようとする人を求めます。

○グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム(5年一貫)

燃料電池、太陽電池、水素製造、熱電変換などの多様なグリーンエネルギーの変換と貯蔵に関する知識と先端技術を習得し、低炭素社会の実現に向けて国際的に活躍する強い意欲を持った人を求めます。

○医科学専攻

生命科学研究や社会医学研究を担う研究者、またその成果を、医療の現場、保健医療行政および健康教育分野において応用できる高度先端技術と学際的知識を持つ専門家をめざす人材を求めます。

○看護学専攻

看護学の実践や研究を遂行できる基礎学力を備え、人間・健康・環境・看護について深い興味と問題意識を持ち、それを実践する人を求めます。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=33

【医学工学総合教育部博士課程】

【教育目標】

研究者もしくは高度な専門技術者として自立して研究活動を行うに必要な深い学識と高度な研究能力並びに高い倫理観を備えた優れた研究者もしくは高度な専門技術者の育成を目指しています。

【アドミッション・ポリシー】

基礎的な研究及び独創的な研究を推進し、現在及び未来世代に貢献することに意欲を持った人を求めます。

○先進医療科学専攻

疾患の新しい診断法や治療法を開発し、再生医療など高度先端治療に携わる医師や医学研究者、また高齢者や身体機能に障害をもつ人々をサポートする医療機器や治療法の開発を目指す人材を求めます。

○生体制御学専攻

生体の種々の情報処理機構の解明とその破綻としての病態の理解をベースに、広い学術的視野で問題を解決できる医師、医学研究者、医療技術者を目指す人材を求めます。

○ヒューマンヘルスケア学専攻

看護・保健・福祉に関し、柔軟な思考で創造的な研究に取り組みたい人を求めます。

○人間環境医工学専攻

医学と理工学及び人文・社会科学の融合した知識・技術を学び、新しい複合的視野と創造的意欲を持って、優れた医療環境、社会環境を実現したい人を求めます。

○機能材料システム工学専攻

各種先端ナノデバイスやエレクトロニクス素材開発研究などにおいて、先端的知識と技術を駆使して新規産業分野を開拓し、さらに発展させたいと考えている創造的な人を求めます。

○情報機能システム工学専攻

生産システムや情報システムを構成するハードウェア、ソフトウェア、情報通信ネットワークを広い視野から設計、構築、運用でき、国際的なプロジェクトで活躍することを目指す人を求めます。

○環境社会創生工学専攻

環境と調和した社会基盤の整備・保全に関する技術開発、自然機能に関する先端的技術の開発、社会の政策・計画における予測・評価手法の開発に関わる専門技術者・研究者を目指す人を求めます。

URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=34

資料 4-1-①-6 特別支援教育特別専攻科アドミッション・ポリシー

<p>特別支援教育特別専攻科 【教育目標】 特別支援学校の教員の養成、及び小学校や中学校などで実施される特別支援教育を担う教員の養成を行うことを目的としています。 【アドミッション・ポリシー】 小学校または中学校、高等学校、幼稚園の教諭のいずれかの免許状の取得者で特別支援学校教諭一種免許状の取得を希望する人(Aコース)、すでに特別支援学校教諭一種免許状取得者で同専修免許状の取得を希望する人(Bコース)を求めます。 URL:http://www.yamanashi.ac.jp/modules/ymsprofile/index.php?content_id=204</p>
--

【分析結果とその根拠理由】

学士課程では、大学全体及び各学部・学科での教育目標、アドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページ、入学者選抜要項、学生募集要項等に掲載し周知している。

大学院課程では、研究科、教育部、専攻科ごとの教育目標、アドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページ、入学者選抜要項(医学系を除く)、学生募集要項等に掲載し周知している。

以上のことから、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められていると判断する。

観点 4-1-②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点到る状況】

山梨大学学則、山梨大学大学院学則において入学資格を定めている(別添資料 4-1-②-I)。

学士課程においては、アドミッション・ポリシーに基づく本学の求める学生像に沿った学生を受け入れるために、一般選抜(一般入試)、特別選抜(一般推薦、専門高校・総合学科特別推薦、A0入試)、私費外国人留学生選抜、編入学、3年次編入学など、幅広く門戸を開き、多様な選抜を実施している(資料 4-1-②-1)。

一般選抜(前期・後期)では、全学部でセンター試験により本学での教育を受けるのにふさわしい基礎学力等を判定し、個別学力検査で各学部学科の求める学生像に沿って、必要な学力及び、論理的思考力、表現力、課題の解決力、学習意欲等を判定するための筆記試験、実技検査、面接、小論文等の試験を行っている。

特別選抜(推薦入試、特別推薦入試、A0入試)では、医学部医学科では学力の判断に大学入試センター試験を課し、他の学部学科では学力は受験の条件や調査書で判定し、実技、面接、小論文、口頭試問により意欲や適性等を判定している。また、工学部の一部学科では地域との連携を深める意味で地域枠を設けている。

私費外国人留学生、編入学、3年次編入学の選抜試験における口述試験に、留学生に対しては大学入試センター試験の免除や日本留学試験、TOEFL の成績を加味する、編入学生に対しては出身学校の成績証明書等を加味するなど、入学する学生の適性等を判断している。

平成 25 年度の選抜試験の実施結果は、資料 4-1-②-2 に示すとおりであり、各試験区分において相応の入学者を得ている。

大学院課程においては、研究科、教育部、専攻科ごとに、専門的知識と能力を有する職業人や研究者を養成するために、入学者選抜の基本方針に沿って、希望する研究分野、必要な専門的能力、研究と勉学意欲などを問う入学者選抜を行っている(資料 4-1-②-3、資料 4-1-②-4)。

前期、後期、特別募集などの複数の受験機会を提供し、選抜にあたっては、一般選抜(一般入試)以外に特別選抜(推薦、自己推薦、社会人特別選抜)の多様な選抜方法により、広く門戸を開いている。

選抜の方法としては、筆記試験、口述試験を課し、専門知識、口頭発表能力、意欲など必要な専門的能力に関する基本方針に沿った選抜方法を実施しており、相応の受験者を得ている(資料 4-1-②-5)。また、外国人留学生のために、入学試験を英語での受験も可能とし、連動して講義や論文発表も英語を可能とし、英語版の募集要項を作成し(URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/admission/index.php?content_id=266)、

配布している。また、大学院では複数の入学者選抜とあわせて、春季と秋季の2回の入学の機会を提供しており、相応の入学者を得ている(資料4-1-②-6)。

資料4-1-②-1 平成25年度学士課程入試方法一覧

区 分		実施学部	選抜方法等
一般入試	前期日程	教育人間科学部、医学部(看護学科)、工学部、生命環境学部	大学入試センター試験の成績、本学が実施する学力検査、面接、小論文及び実技検査等の成績並びに調査書等
	後期日程	教育人間科学部、医学部、工学部、生命環境学部	
推薦入試	個別学力検査を免除し、大学入試センター試験を課す	医学部(医学科)	大学入試センター試験の成績、出願書類(調査書、推薦書、志願理由書等)、面接
	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除す	教育人間科学部(幼小発達教育コースは除く)、医学部(看護学科)、工学部	出願書類(調査書、推薦書、活動実績報告書等)、面接、小論文、実技検査
AO入試		工学部(応用化学科)	面接、実験・実習の実施、実験・実習の結果、質疑応答の結果を総合して判定
私費外国人留学生入試		教育人間科学部、工学部	日本留学試験、本学が実施する面接試験、実技検査(教育人間科学部)、出身学校長が発行した成績証明書、TOEFL成績証明書、面接を総合して判定
3年次編入学		医学部(看護学科)	学力検査の成績、面接の評価、成績証明書の内容を総合して判定
		工学部(特別編入学、編入学)	成績証明書及び筆記試験、口述試験、面接試験の結果を総合して判定

(出典：平成25年度山梨大学入学者選抜要項に基づき企画部企画課にて作成)

資料4-1-②-2 平成25年度山梨大学入学者選抜試験実施結果

区 分		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
一般入試	前期日程	465	1,293	535	474
	後期日程	183	2,671	211	181
	二次募集	2	17	2	2
推薦入試		191	514	184	184
AO入試		8	35	8	8
私費外国人留学生入試		若干人	49	18	13
3年次編入学		30+若干人	105	44	21

(出典：第110回教育研究評議会資料に基づき企画部企画課にて作成)

資料4-1-②-3 平成25年度大学院課程入試方法一覧表

研究科名(専攻名)等	課程等	領域等	一般選抜	推薦特別選抜	自己推薦特別選抜	社会人特別選抜	社会人特別選抜1年	現職教員等	教育プログラム	外国人選抜
教育学研究科	教職大学院		○					○		
医学工学総合教育部	修士課程	医学領域	○			○				
医学工学総合教育部	修士課程	看護学領域	○			○				
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	○	○	○	○	○		○	

医学工学総合教育部	博士課程	医学領域	○						
医学工学総合教育部	博士課程	医学工学融合領域	○			○			○
医学工学総合教育部	博士課程	工学領域	○			○		○	○
専攻科	特別支援教育特別専攻科	A コース	○						
専攻科	特別支援教育特別専攻科	B コース	○						

(出典：各学部提供資料)

資料 4-1-②-4 平成25年度大学院課程試験科目一覧

研究科名(専攻名)等	課程等	領域等	専攻	試験科目	備考
教育学研究科	修士課程		教育支援科学専攻・教科教育専攻	筆記試験 口述試験	筆記試験は専門と外国語 口述試験は研究計画書を中心に試問 ※現職教員等・社会人は試験形態を選択可 外国人選抜は筆記試験(専門)と口述試験
教育学研究科	教職大学院		教育実践創成専攻	筆記試験 口述試験	筆記試験は小論文 口述試験は学校教育の課題についての考え方や志望理由を中心に試問 ※特別選抜は口述試験のみ
医学工学総合教育部	修士課程	医学領域	医科学専攻	英語 口述試験	筆記試験 社会人特別選抜の口述試験は、研究計画書等に基づいた試問
医学工学総合教育部	修士課程	看護学領域	看護学専攻	小論文Ⅰ 小論文Ⅱ 口述試験	志望する教育・研究領域の基礎知識についての論述 看護学に関するトピックスについての論述 志望する教育・研究領域の口頭試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	機械システム工学専攻	筆記試験 口述試験	筆記試験は外国語と数学、 口述試験は、機械工学に関連した試問、志望動機と卒業論文、研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	電気電子システム工学専攻	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	コンピュータ・メディア工学専攻	筆記試験 口述試験	筆記試験は専門科目、 口述試験は、研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	土木環境工学専攻	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表及び口頭発表の内容と専門科目等に関連した試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	応用化学専攻	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表及び口頭発表の内容と専門科目等に関連した試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	生命工学専攻(ワイン科学コースを含む)	筆記試験 口述試験	筆記試験は専門科目と外国語、 口述試験は、専門科目に関連する試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	持続社会形成専攻	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	人間システム工学専攻	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	組込み型統合システム開発教育プログラム	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	国際流域環境科学特別教育プログラム	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	クリーンエネルギー特別教育プログラム	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問

医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	ワイン科学特別教育プログラム	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく諮問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	グリーンエネルギー変換工学特別プログラム	筆記試験 口述試験	筆記試験は外国語と基礎及び専門、口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問
医学工学総合教育部	修士課程	工学領域	コンピュータ・メディア工学専攻 日中ブリッジSE養成特別教育プログラム	口述試験	口述試験は、志望動機と研究計画の発表とそれに基づく試問、ただし、平成25年度入学者より募集停止中
医学工学総合教育部	博士課程	医学領域	先進医療科学専攻	英語 口述試験	筆記試験 志望専攻関連領域の口頭試問
医学工学総合教育部	博士課程	医学領域	生体制御学専攻	英語 口述試験	筆記試験 志望専攻関連領域の口頭試問
医学工学総合教育部	博士課程	医学工学融合領域	ヒューマンヘルスケア学専攻	英語 口述試験 小論文	筆記試験 志望専攻関連領域の口頭試問 志望専攻関連領域についての論述
医学工学総合教育部	博士課程	医学工学融合領域	人間環境医工学専攻(生体環境学コース)	英語 口述試験	筆記試験 志望専攻関連領域の口頭試問
医学工学総合教育部	博士課程	工学領域	機能材料システム工学専攻	口述試験	口述試験は、研究計画に関する試問等
医学工学総合教育部	博士課程	工学領域	情報機能システム工学専攻	口述試験	口述試験は、研究計画に関する試問等
医学工学総合教育部	博士課程	工学領域	環境社会創生工学専攻	口述試験	口述試験は、研究計画に関する試問等
医学工学総合教育部	博士課程	工学領域	グリーンエネルギー変換工学特別プログラム	筆記試験 口述試験	筆記試験は専門科目と英語、口述試験は研究計画の発表とそれに基づく試問
専攻科	特別支援教育特別専攻科	A コース		筆記試験 口述試験	教職に関する基礎的事項
専攻科	特別支援教育特別専攻科	B コース		筆記試験 口述試験	障害児教育に関する専門的事項

(出典:各学部提供資料)

資料4-1-②-5 平成25年度大学院試験実施結果

区分	研究科・教育部	志願者数	入学者数
修士課程	教育学研究科	35	27
教職大学院の課程	教育学研究科	18	11
修士課程	医学工学総合教育部(医学領域)	3	3
	医学工学総合教育部(看護学領域)	9	9
	医学工学総合教育部(工学領域)	261	227
博士課程	医学工学総合教育部(医学領域)	29	27
	医学工学総合教育部(医学工学融合領域)	20	19
	医学工学総合教育部(工学領域)	28	28

(出典:第110回教育研究評議会資料に基づき企画部企画課にて作成)

資料4-1-②-6 大学院課程10月入学者数

区 分			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
医学工学総合	修士課程	工学領域					
		機械システム工学専攻	1				
		電気電子システム工学専攻		1	1		1
		コンピュータ・メディア工学専攻	10	7	4		
		土木環境工学専攻	1		2		
		応用化学専攻					
		生命工学専攻	1			1	1
		持続社会形成専攻	1				

教育部		人間システム工学専攻		2			
		組込み型統合システム開発教育プログラム					
		国際流域環境科学特別教育プログラム	1				
		グリーンエネルギー変換特別教育プログラム	-	-	-		2
		グリーンエネルギー特別教育プログラム	-	-	-		
		ワイン科学特別教育プログラム	-	-	-	2	
		計	15	10	7	3	4
修士 計		15	10	7	3	4	
博士課程	医学領域	先進医療科学専攻	-	-	6	2(3)	
		生体制御学専攻	-	-		1	
		計	-	-	6	3(3)	
	医学工学融合領域	人間環境医工学専攻(生命情報システム学)	1	1	1		
		人間環境医工学専攻(生体環境学)	-	-	6	4	
		計	1	1	7	4	
	工学領域	機能材料システム工学専攻	1	3	3		1
		情報機能システム工学専攻	1		1	2	
		環境社会創生工学専攻	1	2			2
		COE 環境社会創生工学専攻 (国際流域総合水管理特別コース)	5	7	5	4	3
		グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム	-	-	-	3	
		計	8	12	9	9	6
	博士 計		9	13	22	16(3)	6
総合 計		24	23	29	19(3)	10	

カッコ書きは、外数で転入学者。

「-」は、募集なし

(出典:各年度大学院試験実施結果)

別添資料4-1-②-I 入学資格

【分析結果とその根拠理由】

学士課程においては、アドミッション・ポリシーに沿って、一般選抜と特別選抜を実施し、学力検査のほか、小論文、実技検査、面接、口述試験などを組み合わせた入試方法を採用している。

大学院課程においては、研究科、教育部、専攻科ごとに、アドミッション・ポリシーに沿って、研究分野、必要な能力、研究と勉学意欲などを問う筆記試験や口頭試問などが行われ、また、社会人や外国人など多様な学生に対して、複数の受験機会や英語対応など適切な入学者選抜方法を採用している。

以上のことから、入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されていると判断する。

観点4-1-③: 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点に係る状況】

【学士課程】

本学の学部における入学者一般選抜の体制は、大学入試本部規程に基づき(資料4-1-③-1)、学長を本部長、教学担当理事を副本部長及び各学部長、評議員、入試委員長の13人により構成される入試本部会議において学力検査の実施教科・科目、学生募集、試験実施方法の改善等の基本的事項を決定している。下部組織として、入学試験運営委員会を教学担当理事、各学部の入学試験委員会委員長など19人で構成し(資料4-1-③-2)、大学入試センター試験、個別学力検査におけるより具体的な選抜の作業内容を決定し、試験場本部を設置し、実施にあたっている(資料4-1-③-3、別添資料4-1-③-I)。いずれの試験も詳細な作業マニュアルを用意し、説明会を実施することで徹底し、試験会場・試験室間で公正に行われるように管理を行っている。また、個別学力検査の実施中は、出題委員も待機し、問題の最終点検と質問等に対応している。

個別学力検査の出題と採点は、専門の出題担当委員 20 人により構成される「入学試験問題作成・採点委員会」が問題の作成・採点にあっている(資料 4-1-③-4)。出題においては問題作成者によるチェックと作成者以外によるチェックの二重体制を敷き、出題ミスの防止に万全を期すとともに、採点においては複数の採点委員によるダブルチェックにより公正に行っている(資料 4-1-③-5)。なお、出題・採点・チェックの委員は受験生との関わりのない者とし、氏名は機密事項としている。さらに、各学科やコース単位では、面接試験に主観的判断が含まれることを防止するために、面接マニュアルを作成し公正を期している。

可否の決定は、各学部の入学試験委員会が関係資料を整えた上で、各学部の関係委員会や教授会の審議を経て、学長が決定している。

大学院の入学選抜は、研究科、教育部、専攻科の単位で、入試委員会を組織し方法の検討を行い、可否判定基準の決定等の選抜方法は教育学研究科長、医学工学総合教育部長を議長とする修士・博士課程の研究科委員会、教育部領域委員会等で決定する。また、各専攻では、専攻長等を中心とする選抜組織を定めて実施し、合格者の決定を領域委員会等で行う。また、各研究科、各専攻、各専攻科では出題・採点、面接実施マニュアルを定め、公正な試験を実施している。

入学選抜の透明性の確保及び次年度以降の受験生への情報提供のために、受験者数、合格者数、入学者数、合格者平均点等の入試統計資料、入試問題、出題意図、筆記試験の入試問題等の情報をホームページで公表している。学部一般入試では、受験生の請求に応じて、個人の成績を開示している(資料 4-1-③-6、別添資料 4-1-③-II)。

資料 4-1-③-1 山梨大学入試本部規程(抜粋)

○山梨大学大学入試本部規程

(任務)

第 2 条 入試本部は、次の各号に掲げる学部入学選抜に関する事項及び大学入試センター試験の実施に関する基本的事項について検討し実施する。

- (1) 入学選抜制度に関する事項
- (2) 個別学力試験等に関する基本的事項
- (3) その他入学選抜に関する重要事項

(組織)

第 3 条 入試本部は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 理事(教学担当)
- (3) 各学部長
- (4) 各学部の評議員各 1 人
- (5) 各学部の入学試験委員会委員長
- (6) 各学部の入学選抜方法検討委員会委員長
- (7) その他学長の指名する職員

(本部長及び副本部長)

第 5 条 入試本部に、本部長及び副本部長を置く。

- 2 本部長は学長を、副本部長は理事(教学担当)をもって充てる。
- 3 本部長は、入試本部の会議を招集し、その議長となる。
- 4 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員会)

第 9 条 入試本部に、入学選抜試験の実施に関する具体的な事項の策定及び入学選抜方法の改善に関する事項の調査研究のため、次に掲げる委員会を置く。

- (1) 入学試験運営委員会
 - (2) 入学試験問題作成・採点委員会
 - (3) 入学選抜方法研究委員会
- 2 前項各号の委員会に関し必要な事項は、別に定める。
 - 3 その他、特定の事項について調査検討するため、専門委員会を置くことができるものとする。

(各学部の委員会)

第 10 条 入学選抜試験を円滑に実施するため、各学部に次の委員会を設置するものとする。

- (1) 入学試験委員会
- (2) 入学選抜方法検討委員会

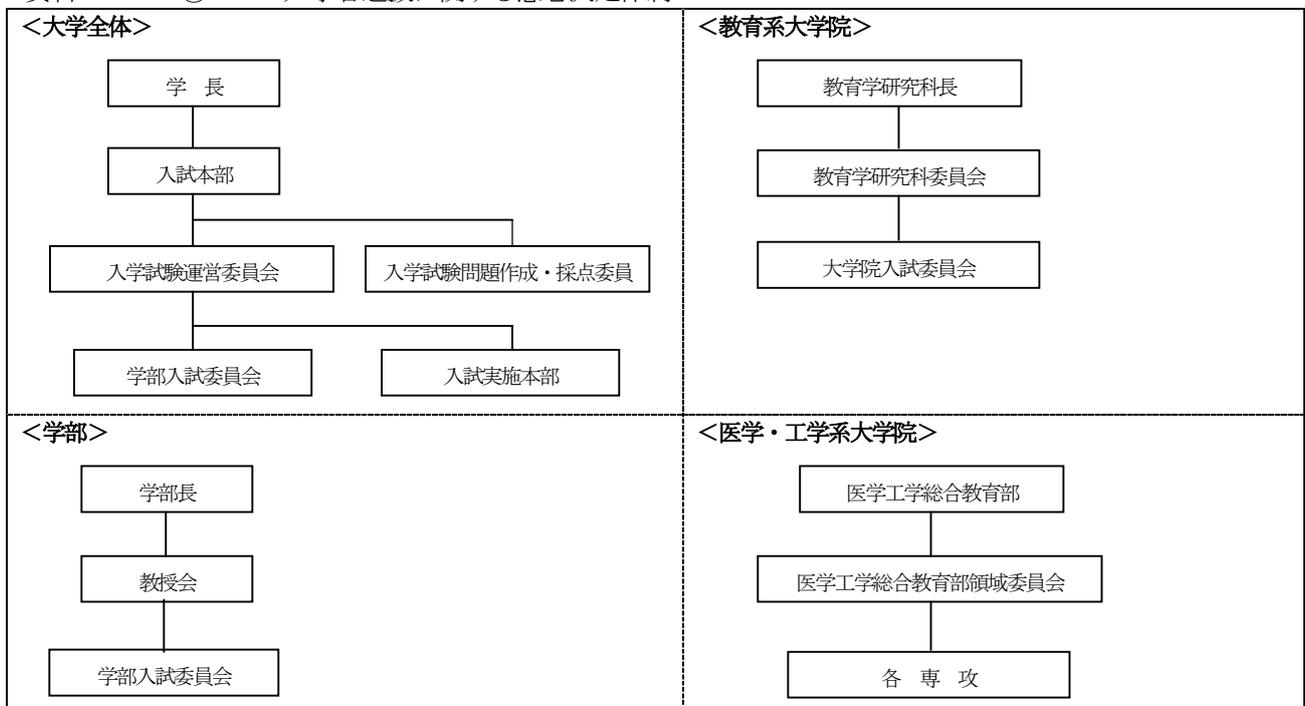
(緊急時の対応)
 第11条 本部長は、緊急の事態が生じた場合、副本部長及び関係者を招集し、対応を協議の上、必要な措置を講ずるものとする。
 (出典：山梨大学大学入試本部規程)

資料4-1-③-2 山梨大学入試本部入学試験運営委員会要項(抜粋)

○山梨大学大学入試本部入学試験運営委員会要項
 第2 任務
 委員会は、当該年度の入学者選抜試験に関する、次の事項を審議する。
 1 大学入試センター試験に関する事項
 (1) 試験の実施要項に関すること。
 (2) 試験実施に係る業務日程に関すること。
 (3) その他大学入試センター試験の実施運営に関すること。
 2 個別学力検査(前期日程試験、後期日程試験)等に関する事項
 (1) 試験の実施要項に関すること。
 (2) 試験実施の日程(追加合格者決定業務日程を含む。)に関すること。
 (3) 試験監督要領に関すること。
 (4) その他入学選抜試験の実施運営に関すること。
 3 入学者選抜試験の電算処理に関する事項
 4 その他入学者選抜試験の運営に関する事項
 第3 組織
 1 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 (1) 理事(教学担当)
 (2) 各学部の入学試験委員会委員長、副委員長
 (3) 各学部の入学試験委員会委員長が指名する入学試験委員会委員各2人(うち1名は電算処理を担当する委員とする。)
 (4) 保健管理センター所長
 (5) 総合情報処理センター長
 (6) その他理事(教学担当)が指名する者
 3 委員会に、委員長及び副委員長を置く。
 4 委員長は、理事(教学担当)をもって充て、副委員長は、各学部の入学試験委員会委員長の輪番とする。

(出典：山梨大学大学入試本部入学試験運営委員会要項)

資料4-1-③-3 入学者選抜に関する意思決定体制



(出典：各学部提供資料)

資料4-1-③-4 山梨大学入試本部入学試験問題作成・採点委員会要項(抜粋)

○山梨大学大学入試本部入学試験問題作成・採点委員会要項
 第2 任務
 委員会は、当該年度の個別学力検査等(以下「入学試験」という。)に関する、次の事項を審議する。

(1) 入学試験問題作成業務に関する事項

(2) 入学試験採点業務に関する事項

第3 組織

1 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 理事(教学担当)

(2) 各学部入学試験委員会委員長

(3) 第4で定める各入学試験問題作成・採点専門委員会の主任

(4) その他理事(教学担当)の指名する者

2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は理事(教学担当)を、副委員長は各学部入学試験委員会委員長をもって充てる。

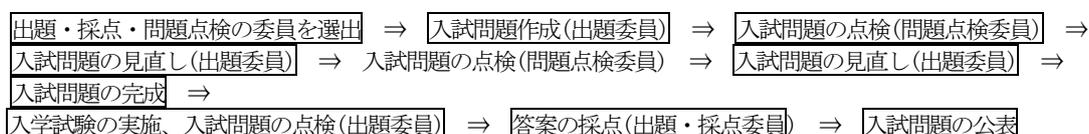
第4 専門委員会

1 委員会に、各学部ごとの出題教科・科目等に応じて必要な入学試験問題作成・採点専門委員会(以下「専門委員会」という。)を置く。

2 専門委員会の任務、組織等については、別に定める。

(出典：山梨大学入試本部入学試験問題作成・採点委員会要項)

資料4-1-③-5 入学試験問題の作成に関する流れ



(出典：山梨大学入試本部入学試験問題作成・採点委員会資料)

資料4-1-③-6 受験生への情報提供

(学部入試情報URL：http://www.yamanashi.ac.jp/modules/admission_top/)

(大学院入試情報 URL:URL：http://www.yamanashi.ac.jp/modules/admission_top/)

別添資料4-1-③-I 平成25年度山梨大学入試実施体制

別添資料4-1-③-II 一般入試の成績開示

【分析結果とその根拠理由】

本学では、全学の入学試験委員会と各学部・研究科・教育部・専攻科における実施体制を確立して、学部・大学院の入学試験を実施している。さらに入試統計資料、入試問題等の公表により、選抜の透明性を確保している。以上のことから、入学者選抜が適切な体制により、公正に実施されていると判断する。

観点4-1-④： 入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

大学全体として、教学担当理事を委員長とし学部からの代表から構成される入学者選抜方法研究委員会(10人)を組織し(資料4-1-④-1)、また、各学部の検討組織において、受験者数や入学者数、志望理由や進路希望等の新入生アンケート調査、入学後の成績の追跡調査、卒業生の評価調査等について検討を行い、隔年で分析結果の報告書を発行している(資料4-1-④-2)。この調査報告は、教育人間科学部では入学者選抜方法等検討委員会、医学部では入学試験委員会、工学部では入学者選抜方法検討委員会、生命環境学部では入試委員会において、それぞれアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れの検証及び入学者選抜方法の改善に役立てている(資料4-1-④-3)。

大学院の入学方法に関する検討は、研究科、教育部、専攻科においてそれぞれ行っており、入学者選抜方法の改善を行っている(資料4-1-④-4)。

資料4-1-④-1 山梨大学大学入試本部入学者選抜方法研究委員会要項(抜粋)

○山梨大学大学入試本部入学者選抜方法研究委員会要項

第2 任務

- 1 委員会は、本学における入学者の選抜方法等について、調査研究する。
- 2 委員会は、必要に応じて、調査研究の結果を入試本部に報告するものとする。

第3 組織

1 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 理事(教学担当)
- (2) 各学部の入学者選抜方法検討委員会委員長
- (3) 各学部の教員各2人

2 前号(3)の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

4 委員長は、理事(教学担当)をもって充て、副委員長は、委員長が指名する。

第4 意見の聴聞

委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第5 学外団体への参加

委員会は、国立大学入学者選抜研究連絡協議会の会員となる。

(出典：山梨大学大学入試本部入学者選抜方法研究委員会要項)

資料4-1-④-2 入学者選抜方法研究委員会報告書2013年度報告書(抜粋)

○入学者選抜方法研究委員会報告書2013年度報告書 目次

第1章 志願者及び入学者における動向調査 (教育人間科学部)

- 1.1 調査目的
- 1.2 調査方法
- 1.3 調査結果ならびに分析
- 1.4 考察 ー近年の志願者及び入学者の動向ー

第2章 入学者追跡調査 (教育人間科学部)

- 2.1 調査目的・方法
- 2.2 入試と学業成績との関連
- 2.3 推薦入試による入学者の学業成績と進路選択
- 2.4 1年次末の系選択の実態

第3章 改組後入学生の情報入手及び受験動機に関する調査 (教育人間科学部)

- 3.1 調査目的
- 3.2 調査方法
- 3.3 調査結果ならびに分析
- 3.4 受験理由
- 3.5 進路選択
- 3.6 入試方法等についての意見

第4章 アドミッション・ポリシーに関する調査 (教育人間科学部)

- 4.1 調査目的
- 4.2 調査方法
- 4.3 学生向けの調査の結果

第5章 入試と入学後の動向 (医学部)

- 5.1 医学部医学科・看護学科の入学志願者数の推移
- 5.2 入試成績(センター試験・個別学力試験)と入学後の成績
- 5.3 入試方法の改善に向けて

第6章 新入学生調査 (医学部)

- 6.1 平成25年度医学部医学科新入学アンケート
- 6.2 平成25年度医学部看護学科新入生アンケート

第7章 工学部入学者追跡調査

- 7.1 応募および入学状況
- 7.2 入学者追跡調査

付録A 工学部入学者選抜に関するデータの解析について

第8章 工学部入試第2志望制度に関する調査

- 8.1 目的と方法
- 8.2 分析結果

第9章 工学部新入生アンケート

- 9.1 はじめに

9. 2	入試制度改革の経過
9. 3	アンケート調査の目的と実施方法ならびに集計方法
9. 4	設問別集計結果の経年変化
9. 5	集計結果のまとめ
第10章	工学部入試素点データの分析
10. 1	目的
10. 2	分析対象と方法
10. 3	分析結果
第11章	生命環境学部の志願者及び入学者の動向調査
11. 1	調査の目的
11. 2	調査結果
11. 3	まとめ
第12章	生命環境学部平成24年度入学者の大学入試センター試験結果と入学後の学業成績との相関
12. 1	調査の目的及び方法
12. 2	調査結果
12. 3	まとめ
第13章	生命環境学部新入生、2年生に対する学生アンケート
13. 1	アンケートの目的と方法
13. 2	調査結果
13. 3	まとめ

(出典：入学者選抜方法研究委員会報告書2013年度報告書)

資料4-1-④-3 一般入試個別学力検査等の改善状況

年度	学部	検証内容	改善内容
平成21年度入試	教育人間科学部	<ul style="list-style-type: none"> 問題作成方法の見直し 選抜方法の見直し 志願者獲得のための見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○後期日程において「小論文」を一歩化した。 ○生涯学習課程スポーツ健康科学コース(前期日程)の個別学力検査において、「面接」を廃止し、「実技」のみを実施。 ○ソフトサイエンス課程環境科学コースの募集人員を次のように変更した。 推薦入試 2人→3人 一般入試(前期日程) 14人→13人
平成22年度入試		<ul style="list-style-type: none"> 選抜方法の見直し 	○一般入試(前期日程)の個別学力検査の外国語の選択科目より、「ドイツ語」と「フランス語」を廃止した。
平成23年度入試		<ul style="list-style-type: none"> 選抜方法の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科教育コース音楽教育専修の一般入試(前期日程)において、実技検査の内容を一部変更した。 ○スポーツ健康科学コースの一般入試(前期日程)の試験日を2月26日から2月25日へ変更した。 ○芸術運営コースの一般入試(後期日程)において、選抜方法を「小論文」から「面接」へ変更した。
平成24年度入試		<ul style="list-style-type: none"> 学部改組 	○改組のため入学定員の変更を行った。
平成25年度入試		<ul style="list-style-type: none"> 問題作成方法の見直し 	○一般入試(前期日程)において、個別学力検査の試験教科「数学」の出題範囲を次のように変更した。 数学 数学Ⅱ・数学B → 数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B
平成25年度入試	医学部	<ul style="list-style-type: none"> 小論文の設問数と時間数との関わりを検討した結果、1時間30分で十分評価可能であるとの判断に達した。一方で、集団面接から個人面接に変更することで、一人一人の人物評価をより重視すべきとの判断に達した。 	○看護学科前期日程入試 小論文 2時間→1時間30分 集団面接→個人面接
平成21年度入試	工学部	<ul style="list-style-type: none"> 本枠導入の初年度であり、募集人員4名に対し9名の志願者があり入学者は2名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○推薦入試(一般推薦)では、機械システム工学科及び電気電子システム工学科において「地域産業リーダー養成特別枠」を新たに設け、山梨県内高等学校出身者を対象とした選抜を実施。 ※機械システム工学科及び電気電子システム工学科のみで実施し、募集人員は一般推薦の募集人員のうち各学科2人以内とした。
平成22年度入試		<ul style="list-style-type: none"> A0入試に関して：変更前は志願倍率2.6倍であったが、この変更以降H22年度以降はH24年度を除いて4倍以上の志願倍率を維持しており、 	<ul style="list-style-type: none"> ○応用化学科のAO入試(普通高校)において第1次選考を廃止し、選抜方法を面接(一般面接・口頭試問)、実験・実習に変更 ○推薦入試(一般推薦)の「地域産業リーダー養成特別枠」をコンピ

		変更による改善が見られる。 ・地域産業リーダー：募集人員は前年度から3名増加した7名とした。これに対し志願者が15名であり、入学者6名と、ほぼ募集人員を満たしたが、次年度以降志願者および入学者が減少傾向であったためH27年度より本入試枠を廃止し、主として3年次から同枠に編入する制度に移行する予定である。	ユータ・メディア工学科と応用化学科に新たに設け、山梨県内高等学校出身者を対象とした選抜を実施
平成24年度入試		・学部改組	○学部改組により、機械システム工学科・電気電子システム工学科・コンピュータ・メディア工学科・土木環境工学科・応用化学科・生命工学科・循環システム工学科・クリーンエネルギー特別教育プログラム・ワイン科学特別教育プログラムの募集を停止し、機械工学科・電気電子工学科・コンピュータ理工学科・情報メカトロニクス工学科・土木環境工学科・応用化学科・先端材料理工学科の7学科に改組し、これに関連して入試方法等の変更を行った。
平成25年度入試		・新宿会場(H26度は東京会場)：H24年度に学部改組が実施され、参考データではあるが前期の工学部平均志願倍率は改組前の4年間は2.5～3.0倍であり、改組後も同様の倍率を維持している。また全志願者中の新宿会場受験者の割合は22～23%である。新宿試験場の追加による顕著な効果はないものの、安定した志願倍率をキープしているといえる。 ・数学の出題範囲の変更：今後の入試データ分析や入学後の追跡調査などにより、本改善による効果を検証していく。	○一般入試前期日程において、学外試験場(新宿試験場)を追加。 ○一般入試前期日程において、個別学力検査の試験教科「数学」の出題範囲を次のように変更。 「数学：数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲ・数学C」を、「数学：数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲ・数学C ※ただし、問題の一部に数学Ⅰ・数学Aを含む場合がある。」に変更した。

(出典：各学部提供資料)

資料4-1-④-4 大学院研究科等の入学者選抜の改善状況

年度	学部	検証内容	改善内容
平成22年度入試	教育学研究科	・研究科改組	○改組のため入学定員の変更を行った。
平成24年度入試		・選抜方法の見直し	○外国人(私費留学生)の出願資格の変更を行ったため、日本語科目(小論文)を課さないこととした。
平成21年度入試	特別支援教育	・志願者獲得のための見直し	○募集を前期、後期の年2回とした。
平成26年度入試	特別専攻科	・選抜方法の見直し	○論文→筆記試験、面接→口述試験へ変更した。
平成21年度入試	医学工学総合教育部(修士課程)	・新規発足のプログラムおよびコースにおける入学者選抜方法のあり方を検証	○組み込み型統合システム開発教育プログラムおよびワイン科学コースの発足に関連する入試方法等の変更を行った。
平成22年度入試		・既存の専攻におけるより合理的な入学者選抜方法のあり方を検証	○土木環境工学専攻において、選抜方法を前年度まで筆記試験および口述試験としていたものを、口述試験のみに変更した。 ○人間システム工学専攻および国際流域環境科学特別教育プログラムの発足および自然機能開発専攻の廃止に関連する入試方法等の変更を行った。
平成23年度入試		・新規発足の専攻およびプログラムにおける入学者選抜方法のあり方を検証	○土木環境工学専攻において、特別推薦の募集枠を廃止し、一般推薦枠のみに変更した。
平成24年度入試		・既存の専攻におけるより合理的な入学者選抜方法のあり方を検証	○グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラムの発足に関連する入試方法等の変更を行った。

(出典：各学部提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するために、入学者選抜方法研究委員会等を組織し検証するための取組みが適正に行われている。

以上のことから、入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断する。

観点 4-2-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点到に係る状況】

過去5年間における入学定員充足率の平均値は、「平均入学定員充足率計算表」のとおりである。

学士課程において、実入学者数が、「入学定員を大幅に超える(1.3倍以上)、又は大幅に下回る(0.7倍未満)状況」に関しては、3年次編入学試験で1学科が大幅に下回った。

大学院課程、専攻科において、「入学定員を大幅に超える(1.3倍以上)、又は大幅に下回る(0.7倍未満)状況」に関しては、修士課程では教育部で3専攻が上回り3専攻が下回り、博士課程では教育部で1専攻が上回り2専攻が下回り、専攻科では2コースで下回る結果となった。

このような状況に対して、教育部、専攻科等において入学定員と実入学者数の適正化を図るべく取組を行っている(資料4-2-①-1)。

資料4-2-①-1 学部、教育部、専攻科入学定員充足率の適正化を図る取組

学部、教育部、専攻科等	取組内容
医学工学総合教育部 修士課程	<p>医科学専攻及び看護学専攻の入学定員充足率については、下回る状況となっており、充足率改善のため、修士課程医学領域委員会及び修士課程看護学領域委員会にて、改善方策を検討し、オープンキャンパス、大学院説明会の開催、「リエゾンアカデミー研究養成プログラム」が採択され、大学院の学位が短期間で取得できるシステム等の確立により、大学院生の確保を図ることとした。また、生命環境学部の大学院設置時に農学を融合した専攻を作ることを検討し、同時に定員の見直しを検討することとした。</p> <p>土木環境工学専攻、持続社会形成専攻においては、恒常的に入学者数が入学定員を大幅に下回る状況となっているが、現在大学院の改組と再編に向けた検討を行っており、この過程において適正な定員の充足に向けた方策を提示する予定である。</p> <p>なお、これまで修士課程の入学定員を充当し、社会のニーズに応じた各種の教育プログラムを展開しており、これらの実績が入学定員と実入学者数との関係の適正化を図るための一助となると思われる。</p>
医学工学総合教育部 博士課程	<p>ヒューマンヘルスケア学専攻及び先進医療科学専攻については、概ね入学定員充足率を満たしているが、情報機能システム工学専攻及び生体制御学専攻の入学定員充足率については、下回る状況となっており、充足率の改善のため、博士課程医学領域委員会及び融合領域生体環境学委員会にて改善方策を検討し、平成23年度から秋季入学を開始するとともに、留学生特別支援制度を制定し、優秀な留学生を受け入れることで、改善が見られた。</p> <p>社会の変化により大学院教育の実質化が求められる中、入学定員の適正化を図るため、平成22年度に入学定員の見直しを行った。その結果として、充足率は若干回復したものの、実入学者数が入学定員を下回る状況は続いている。</p> <p>しかしながら、本学が長年強みとしてきた分野を生かした教育プログラムである「グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム」(平成23年度文部科学省博士課程リーディングプログラム採択)を設置するなどし、博士課程の入学者充足に向けて取り組みを行っているところである。</p> <p>なお、現在、大学院の改組と再編に向けた検討を行っており、現状を踏まえたうえで、適正に組織していく予定である。</p>
専攻科	<p>特別支援教育特別専攻科の入学定員充足率については、Aコースが0.60倍、Bコースが0.40倍と大幅に下回る状況となっている。</p>

	合格後就職先が内定した者が、入学手続きを辞退することによるものであるが、近年の社会状況からやむを得ないと思われる。しかし、平成 21 年度入試より募集を年 2 回に変更後、受験者は定員を超えるようになり、合格者も増加している。
--	---

(出典：各学部提供資料)

【分析結果とその根拠理由】

一部の専攻等で実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況となっており、これを改善するための取組みが行われており、また、現在大学院の改組と再編及び新大学院の設置計画を作成しているところである。

以上のことから入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られていると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・毎年、山梨県教育委員会及び県内高等学校関係者との情報交換会を行ない、本学のアドミッション・ポリシー、入試選抜方法、教育課程等に関する情報交換会を実施するとともに、オープンキャンパス、高校訪問などの機会を通じて広報誌の配布、入試に関する説明会等を実施するなど、入試広報活動に積極的に取り組んでいる。

【改善を要する点】

・入学定員と実入学者数との関係の適正化については、大学院等の一部の専攻で、大幅に超える又は下回る状況となっている。

・工学系大学院では、入学者数が入学定員を大幅に上回っている専攻や、逆に大幅に下回っている専攻がある。現在、生命環境学部の大学院の設置を考慮し、入学定員と専攻組織の再編成を行い定員と実入学者数の適正化に向け検討を開始している。

・医学系大学院では、入学者数が入学定員を下回っている専攻があるため、大学院説明会の開催、「リエゾンアカデミー研究養成プログラム」による、大学院の学位が短期間で取得できるシステム等の確立により、大学院生の確保を図ることとした。また、生命環境学部の大学院設置時に農学を融合した専攻を設置するとともに、定員の見直しを含め検討を開始している。

・専攻科については、入試回数を増やすなど改善に向けて取り組んでいる。